

---

# 兎の歌

ミッシ・ゴッシュ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

兎の歌

### 【Nコード】

N5309F

### 【作者名】

ミッシ・ゴツシュ

### 【あらすじ】

歌の歌——心惑わす、甘い誘い。

「ウツサギがあ出ったらあ殺しいまっしょお〜♪　ウツサギがあ出たからあ殺っちまあお〜♪」

独特のリズムの歌、それに合わせて踊る十人の幼子。手にはそれぞれ頭や耳、手足。十に分けられた兎の部位を持っている。何とおぞましい光景だろうか。

「あっなたあ〜もおっどるう？」

「いや、俺は……」

俺の背後にいつの間にかおかつぱ頭の少女が立っていた。目を覆う程に伸びた前髪。俺に向け突き出した小さな手には、鮮血が滴る兎の頭部が握られている。全身が総毛立ち、恐怖に支配され口も巧く回らない。

「あっなたあ〜はウツサギい？」

にいいと口角を吊り上げた幼児はくすくすと笑う。気付けば幼児達は俺の周りで円を描いていた。

「ウツサギいはごっちそお〜♪」

「ウサギィはあおいし〜♪」

「食ベッたらほっぺえが落ちちゃアうぞお〜♪」

幼児達がぐるぐると俺の周りを踊る内に赤い円が引かれて行く。その上を幼児達が踊り、飛び跳ねると兎の血や臓物がピチャピチャと嫌な音を発した。幼児達の真っ白な薄衣は所々、跳ね返りや滴る血で赤く滲んでいた。

「ウサアギは小さあ〜い♪」

「こおれじゃあ〜足りなあい♪」

俺を囲む円が小さくなる。幼児達はくすくすと笑いながらにじり寄る。

「おっながが空ういた♪」

「はあやく食わくせろお」

幼児達はその小さな手に握る兎の引き千切られた部位を俺に押し付けて来た。

俺の体が、服が、心が——真紅に染まる。

「何なんだこれは！」

「夢だあよお」

「夢？」

「そお〜夢〜」

これほど現実的な夢。いや、非現実な夢はかつて見た事がない、俄かには信じられない夢物語り。しかし、これが夢なら恐れる事など何もない。

幼児達が笑う。くすくす、くすくす。

「なるほど、確かにこれは夢だな」

俺の右手には鈍色の光を放つ日本刀、そして左手には黒光する拳銃。思い描いた物を得る事ができる。

「あなたあも〜やるう？」

さあ、始めようか——ウサギ狩り。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5309f/>

---

兎の歌

2011年1月4日02時55分発行